

専門学校社会医学技術学院
学院長 殿

学校関係者評価委員会

令和6年度学校関係者評価委員会報告書

令和6年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1. 学校関係者評価委員（アイウエオ順）

- 大関 健一郎（養成校・帝京科学大学医療科学部作業療法学科・作業療法士）
- 清水 由美子（卒業生・社会医療法人社団 健生会 法人事務局社保組織部・作業療法士）
- 瀬戸 景子（実習地・医療法人社団 永生会 南多摩病院・理学療法士）
- 田村 浩子（自治体・小金井市保健福祉部 介護福祉課 包括支援係）
- 濱野 智徳（地域・濱野智徳公認会計士税理士事務所）
- 百田 昌央（就職先・社会医療法人 河北医療財団 多摩事業部 天本病院・理学療法士）
- 森川 美智恵（高等学校・聖パウロ学園高等学校進路指導担当）

2. 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第1回委員会 令和6年8月1日（会場 社会医学技術学院）
- 第2回委員会 令和7年1月23日（会場 社会医学技術学院）

3. 学校関係者評価 結果報告

別紙のとおり

学校関係者評価報告書(令和6年度)

<p>基準1 教育理念・ 目的・ 育成人材像</p>	<p>① 教育理念・目的を学生に提示するだけでは十分ではなく、いかにそれを学生に理解してもらうかが重要であると考えます。したがって、入学前ガイダンスで新生に教育理念・目的を説明することはとても良い取り組みだと思いますし、必要なことと思いますが、その説明にはどれくらい具体性があるのでしょうか。昨今、リハビリテーション専門職の職域はかなり細分化され、一言でいい表すことが難しいように感じます。社医学卒業生に限った話ではありませんが、病院の新入職員もしくは実習生を見ているとそもそもリハビリテーション専門職が何をやる職業なのか具体的に理解しておらず、自身が思い描いていた像とのギャップに苦しむ人を多く見るように思います。理想論のみを語るのではなく、現実的に即し具体的に“人に寄り添う、生きることを支える”を提示してほしいと思います。</p> <p>② 多様性や個別性などにあわせながらの教育は難しさが多くあると思いますが、社医学の卒業生や実習生は全体的にコミュニケーション能力が高く、礼節があり柔軟な思考ができる人が多いと感じています。社医学での教育が学生の質に大きく影響を及ぼしていることが多々あると思いますので、現状分析も含め、今後も人材育成を継続してほしいです。</p> <p>③ 人材育成において、現在は臨床実習指導者講習会受講済みが指導者条件となっているが、未だ臨床参加型での実習を完璧に行えている施設が少ない。学校主催の指導者会議も、コロナ禍で遠隔が多くなっているが、今後は対面となると思いますので指導者教育にも重点を置いていただくとよいかと思ひます。</p> <p>④ OT 学科再編にもあるように、従来の社医学の「働きながら学ぶ」の割りあいが変わっていると感じます。『学校の将来構想』という視点では、従来の社医学の良さを生かして何を強みにできるのか、学校・卒業生など色々な場面で討議し、できるだけ多くの意見を得られるといいと思います。</p> <p>⑤ 入学時基礎力試験の分析を活かして、国試の合格率に成果が出ています。一方で、退学者数と休学者数が増加しており、原因分析と明確な対応策の策定が必要です。募集の定員割れを起こしているため、PT・OTの良さを社会に伝えるとともに、学校の認知度の向上を図る必要があります。</p> <p>⑥ 教育理念・教育目標の掲示や国家試験合格率の周知等工夫されている点は良いと思います。新生の入学時基礎力調査にも取組始められておりますので、今後の教育目標の整備等期待したいと思います。</p> <p>⑦ 就職先にアンケート調査を実施し、フィードバックを得られることは教育活動を振り返るうえで有効だと思います。育成人材像については、今の学生の良い点をさらに伸ばしながら、アンケート結果を鑑み、具体的な目標を設定していただければと思います。</p>
--	--

<p>基準2 学校運営</p>	<p>① 創立50年という歴史は大きな資産ですが、近年の大学志向や定員割れの現状を踏まえると、学校のブランド力を再構築し、教育内容の強化やマーケティングの見直しが必要なのではないのでしょうか？</p> <p>② 学校数も多く、定員確保が難しい現状があることを理解しました。学生の質を維持しつつ定員充足に向けた運営に期待しています。</p> <p>③ 定員割れ問題は本学のみの問題ではない。リハビリ職全体の評価や魅力が他の医療職と比較して低下していると言えるかもしれない。そのため、学校単位で定員割れを防ぐ方策を打ち出すのは楽ではないが、学生を集められている学校もあるため、上手くそれらの方策を取り入れできるとよいと思います。</p> <p>④ 現状は問題ないと思います。退学者や休学者の対応について、もう少し対策の可能性があるのででしょうか？</p> <p>⑤ 良い運営ができていますが、退学者数と休学者数の増加に留意が必要です。</p> <p>⑥ 少子化にともない、学校運営は課題が多いと思いますが、社医学の強みを活かした運営を期待しています。</p> <p>⑦ 今後ますます少子化が進行する中で、新たな魅力づくりを検討していくことが必要だと思います。専門学校と大学との差別化、特に高校生には、専門学校の魅力をどのようにアピールしていくのかが重要だと思います。仕事に対し、夢が広がり、わくわく感のあるイメージが必要だと思います。</p>
<p>基準3 教育活動</p>	<p>① PT/OT 共に国家試験の合格率が高い水準であることは、国家試験対策がある程度成功していると考えます。実習を受けている施設側として、他の大学・専門学校との違いを感じる点は、臨床実習において従来型のレポート課題を課していることです。</p> <p>新カリキュラムに変わってからの学生の質を考えると明らかに統合と解釈力が落ちており、医療人としての教育を施設側が新人教育として担う割合が明らかに昔と比較して増大していると感じています。その点では従来型のレポートがあったほうが、学生の理解度を正確に把握できる利点があるし、しっかりと考えさせることを経験させるというメリットはあると思います。一方で新カリキュラムには沿っていない形になっていますが、問題はないのでしょうか？</p> <p>② ここ5年程度の新卒スタッフは業務自立まで時間がかかる傾向があります。じっくりと教育していくことが必要ですが、先輩に教えてほしいという気持ちが強く、自ら学ぼうとする意識が低下していると感じています。社医学に限った話ではないですが、自己で悩みながら学習することの大切さも伝えていってもらえればと思います。また、国試に合格する勉強が優先にはなるかもしれませんが、現在行っている学びが、就職した際にどうつながっているのか俯瞰したイメージが広がる教育もより多く取り入れていただきたいです。</p> <p>③ 全般的にリハビリを目指す学生の学力低下は各所で聞くことができる。その中でもとりわけ、作業療法学科の学生は他の職種に比べ学修スキルを上手く修得できていない印象がある。入学時の学力が低くとも、入学後に勉強に目覚める学生も多くいると思われる。教員はティーチングとともにコーチングも講習会に参加するなど本格的に学べるように学校も支援するとよいかと思う。</p>

<p>基準3 教育活動</p>	<p>④ 学力に加えてコミュニケーションや社会性など、臨床実習だけでは追い付かない人との交流の機会を増やすことも必要と感じました。(すでに行われているようですが地域の活動に参加する、卒業生と交流するなど)</p> <p>⑤ カリキュラムの改訂が適時に行われており、適切な専門学校教育を行うことができています。</p> <p>⑥ 厚生労働省の指導要領の基準を上回る教育時間、教育内容を実施し、その結果国家試験合格率が高いのは素晴らしいと思います。</p> <p>⑦ イベントアンケートの結果から、実際に社会で活躍している卒業生の姿と自分の将来の姿を重ね合わせることで、あこがれをもって入学することができるのではないかと感じました。国家試験に合格できるのは当たり前、そのうえで、自分になりたい理学療法士、作業療法士の姿を追えるような、やりたいことが実現できるような力をつけさせていただければと思います。</p>
<p>基準4 学修成果</p>	<p>① 高い就職率を保っていることは素晴らしいと思います。求人数も十分あるところは強みであると考えられます。就職活動支援やキャリア教育を初年度から系統的に実施することが必要との記載がありますが、実際の現場では就職した方がいいがこの先のことは全く考えていない、目標がないという若手スタッフに多く遭遇します。そういったスタッフは大体3年目くらいまでに離職していくケースが多いです。学生のうちから具体的なキャリアを描くための取り組みがあるといいのではないかと思います。</p> <p>② 国家試験合格に向けて、特に理学療法学科昼間部は実習終了から国試本番までの準備期間が短いので長期的な視点でフォローを行い、高い合格率の維持を期待しています。様々の理由により就職率100%は難しいが、今後も就職活動支援を模索していただきたいです。</p> <p>③ 新卒の国家試験合格率はここ最近安定していると思います。以前のほっといても自分で学修して合格できていた学生から、現在の今どきの学生に対する国試対策の手法の試行錯誤の転換期が過ぎ、今の学生たちに合った手法が確立してきたのかと推察している。</p> <p>④ 国家試験の合格率を見て、先生方の多大な努力を認識しました。様々な分野で活躍する卒業生の情報などを示し将来の可能性を広げられるような活動は継続してほしいです。</p> <p>⑤ 社医学国家試験対策マニュアル策定などの努力が実り、国試の合格率が上昇しました。</p> <p>⑥ 初年次に卒業後のキャリアについて学生と担任が話す機会を持つことは、学修成果につながると思いますので、ぜひきめ細かい支援を期待します。</p> <p>⑦ 国家試験の合格率が高いことは教職員の方々のご尽力の賜物であると思います。理学療法学科において「初級パラスポーツ指導員取得認定校」として、+αの資格や技能が獲得できると将来働く場面での幅が出て、自分の個性を発揮することができ、おもしろさや楽しさにつながるのではないかと思います。</p>

基準5
学生支援

- ① 就職活動支援：十分な求人があるとはいえ、学生の希望が集中しがちな分野の求人に限ると数も限られるのではないかと思います。学生自身の希望と、施設側の特性のマッチングは難しいかと思いますが、できる限りの情報収集をしていただき、双方にとっての良好なマッチングを期待します。
メンタルフォロー：メンタルに問題のある学生の表面化はかなり課題であると考えられますが、学校にカウンセラーをおくなどの取り組みは良いと思います。ただ、カウンセラーに相談をするまで問題が深刻化する前に、匿名で SNS を用いて気軽に相談できる窓口が一つあっても良いのではないかと思います。（管理などは大変かと思いますが…）
- ② 学生の支援体制についてよく整備されていると思いました。特に、悩みを抱える学生に対してカウンセラーの対応日数を増加させたことは効果的だと思います。職場でも悩み事を相談することができない人は、今も昔も一定数います。特に若い世代の学生にとっては、相談の仕方が学べるといった点でも有効であると思いました。必要時ではなく定期的に受けられる体制がとれるとより効果的に学生支援ができると思いました。
- ③ 心身の不調を訴える学生が増えていると言われているが、最近では、問題はないといわれる学生達も、物事や考え方に潔癖で神経質な人が増えている印象がある。また、一人では落ち着かない学生、逆に人といるのが嫌い・一人でないと落ち着かないという極端な対人様式を持つ子もよくある風景となりつつあるような気もする。従来の不適応な形態だけでなく、現在では問題はなくとも将来的に社会人として生き難さにつながりそうな学生の支援もできればより良いかと思う。
- ④ 就職後に躓くケースでは学生時代から問題を継続している方もいます。学生時代は国試合格がゴールのように思えますが、その先を見ることが出来る働きかけができるといいと思います。教員と学生の距離が近くてとても良いと思います。カウンセラーを配置したり支援室を設けたり、問題を複数で対応できる体制も評価できます。
- ⑤ 就職活動支援は適切に行われていますが、就職率は 89.7%~95.7%であり、キャリア支援室がさらに機能することが求められます。
- ⑥ 最近では学修だけでなく、生活面等学生を取り巻く様々な支援が必要になってきていると思います。多職種で連携しきめ細かい支援を期待しています。
- ⑦ 休学者が2倍近くに増加していることが気になります。心理カウンセラーとの連携を強化しながら、早い時期での気づきや支援が得られればと思います。様々な事情があるのですが、特に留年については本人の努力はもちろん一番だと思いますが、手厚い手立てを講じていただければと思います。

<p>基準6 教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 厚生労働省の養成校についての指定規則において必要な施設基準、備品が満たされているのであれば問題はないと考えます。 ② 書籍は学生にとっては高額であるので、スペースの確保と図書の実用性を図ってもらいたい。トイレも使用させてもらったがとてもきれいでした。 ③ AIの発達は見張るものがあり、従来の機器機材はすぐに旧式となっていくと思われる。最新機器は、臨床実習地で体験してもらおうのが手取り早いですが、学校に最新機器が導入されていることは、学生にとっても魅力的に映るかもしれない。 ④ 随時備品を増やすなど対応できていて良いと思います。いつ訪問しても明るくてきれいな印象を受けます。 ⑤ 安定した教育環境ですが、一部の設備の故障も報告されています。 ⑥ 厚生労働省で定められた基準に基づいて実施されていると思います。 ⑦ 対面での学習活動ができるようになり、学生がお互いに教え合うことで理解が深まったのではないかと思います。学生同士で学び合える環境をさらに充実させ整えていただければと思います。
<p>基準7 学生の募集と受入れ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 学生募集について、近年の大学志向を考えると高校生が積極的に専門学校を進学先に選ぶことはやはり考えにくいと思います。やはり、社会人入学者の発掘が重要になるのではないのでしょうか？どこに対してアプローチするかが問題となると思います。今まで体育系大学や介護分野へのコンタクトはとっておられるように思いますが、フィットネス業界やボディワーク業界へのアプローチはどうでしょうか？昨今フィットネス・ボディワーク系のWSを見ていて思うことが、理学療法士が講師をつとめるWSが増え、一定の人気があるという状況があります。またバックグラウンドとしてコロナ禍をへて、インストラクターを取り巻く環境が変わっています。対面のインストラクター業のみでは生活できなくなっている人が多くなっている現在、セカンドキャリアとして考える人もいるのではないかと思います。 ② ホームページが見やすく分かりやすかった。OT 学科では夜間部がなくなり、昼間部ができることと、高校からの入学者が増えるのではと思います。社会人入試等により様々な世代の学生を確保していく対策を進めていただきたいと思います。学費を理由に入学を諦めるケースに関しては、働いてから返していく制度があると募集が増えるのではと考えました(素人考えですみません)。 ③ 現在、4年制大学でも一般入試の比率は下がっていると言われている。多くが年内の推薦入試、AO入試で決めている。以前はAO入試は、面接と小論文の形式が多かったが、現在は大学では、AO入試にも「学科試験」を入れているところが多い。年内入試にも学科試験を入れ、その代わり成績上位者には特待生として入学金などの免除をAOでも取り入れてはいいかでしょう。 ④ 今回新しく委員になり、改めてHPやInstagramをよく見るようになりました。学校によってはOTのインスタアカウントを持っているところもありました。担当の方がもっと時間を割けると良いと思いました。

<p>基準7 学生の募集と受入れ</p>	<p>⑤ 指定校からの入学者を増やしたものの、高校推薦入試による入学者は減少してしまいました。予算を割いて、学校のブランディングと WEB・SNS による広報を行っていく必要があります。</p> <p>⑥ 学生の募集にあたっては色々な工夫し行っていると思います。学院だからこその特徴をもっとアピールできたら良いのではと思います。</p> <p>⑦ 募集対策では、現状のように、高校生、大学生、社会人と幅広い層への呼びかけがあるとよいと思います。両学科と関連が深いと思われるスポーツ系学部や福祉系学部を持っている大学への働きかけがあってもよいと思いました。</p>
<p>基準8 財務</p>	<p>① 収入のほとんどが学納金であるため、定員割れの問題は大きいと考えられます。</p> <p>② 安定した経営に向け引き続きお願い致します。</p> <p>③ 入学者現象⇒コスト削減⇒質の低下とならないようにして行ってください。</p> <p>④ 問題ないと思います。</p> <p>⑤ 財政状態及び経営成績には、大きな問題はありません。</p> <p>⑥ 財政健全化に向け、努力されていると思います。</p> <p>⑦ 学生に不利益とならない範囲で、無駄を省き健全運営を心掛けていただければと思います。</p>
<p>基準9 法令等の遵守</p>	<p>① 法令を遵守して、適正な運営がなされているのであれば、問題ないと考えられます。</p> <p>② 適切に実施されていると思います。</p> <p>③ ハラスメントに関する感受性や価値観などが、ここ数年でまた変化しているように感じている。教員として、従来通りのハラスメント対策の言動では、まだ足りないと感じる場面が増えている。夜学から昼間部が変わる中で、特に作業療法学科の教員は、更に注意深くしておくとういことだと思います。</p> <p>④ 問題ないと思います。</p> <p>⑤ 特に指摘すべき事項はありません。</p> <p>⑥ 関連法規の確認を適切に行い、法令を遵守した運営をされていると思います。</p> <p>⑦ 間違いのないよう、学校全体で真摯に取り組まれていると思います。</p>
<p>基準10 社会貢献・地域貢献</p>	<p>① 介護予防体操の取り組みだけではなく、地域住民への健康教育・啓発活動なども行えると社会・地域貢献になるのではないのでしょうか？今後の活動の欄に、授業の一環として取り入れる体制を整えるとありますが、実現できればとても有意義な取り組みになると思います。</p> <p>② 地域の活動にも積極的に参加していると思います。</p> <p>③ 先日、他の大学に行ったとき、作業療法学科だけで7名ぐらい（正確な人数は失念した）の留学生が複数国からきていた。貴学でも、将来的に受け入れも考えていく必要があるかもしれない。</p> <p>④ 小金井市の企画にできるだけ参加し、宣伝できるといいと思います。同窓会も協力できたらいいと思います。</p>

<p>基準10 社会貢献・ 地域貢献</p>	<p>⑤ 小金井阿波踊りやヒガコ・サマーフェスティバルなどの地域のボランティア参加を期待しております。そのベースになるのはサークル活動だと思います。</p> <p>⑥ 市の介護予防事業では長年多大な協力をいただいております。また地域貢献として、市民向け講座の開催等にも協力いただき感謝しております。引き続き、連携のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>⑦ 現在高校では、社会とのつながりが重視され、探究学習でも社会の課題を解決することに視点が向けられています。その意味で、今後、社会や地域に貢献したいという意欲を持った学生が入学してくることと思いますので、学生の主体性を重視した取り組みについてもご支援いただければと思います。</p>
<p>その他の ご意見</p>	<p>① 前回は初めての参加で、どのような役割を求められているのかがよくわからずあまりお役に立てなかったように思います。</p> <p>② 特になし。</p> <p>③ 特になし。</p> <p>④ 当法人では看護学生対策の一環で高校生体験を受け入れていました。卒業生の協力で、学校体験だけでなく現場見学なども社医学窓口のルートもありかと思いました。</p> <p>⑤ 自己評価は適切でした。お疲れ様でした。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>⑥ 特になし。</p> <p>⑦ 特に作業療法の分野では、今後さまざまな職業で人手不足が懸念されるなか、協会等大きな組織全体で速やかに動く必要があるのではないかと思います。</p> <p>高校生はパソコンよりも主にスマホを利用することが多いので、ホームページ等での工夫が必要だと思います。</p> <p>※退学者、休学者の動向が気になります。心理カウンセラーとの相談等の利用状況を含めて、詳細をご報告いただければと思います。</p>